

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	教育学研究科教育科学専攻
学年(出発時)	2年
大学名	ライプツィヒ大学
国	ドイツ
留学期間	2021年9月から2022年8月まで
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	
11:00	授業
12:00	友人と歓談
13:00	学食で昼食
14:00	
15:00	授業
16:00	授業
17:00	自習
18:00	
19:00	
20:00	夕食
21:00	帰宅
22:00	自習
23:00	
0:00	就寝

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Schreiben	1	2	ドイツ語	レポート、大学で必要とされる文章の書き方
Übersetzung	1	2	ドイツ語・日本語	ドイツ語の記事を日本語に翻訳(日本語学科のマスターの授業)
Konversation	1	2	ドイツ語	ドイツ語でのディスカッションやプレゼンテーション
Phonetik	1	2	ドイツ語	ドイツ語の発音練習
Belonging in a Transnational	1	2	英語	レポート、ディスカッション

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	Studienkolleg Sachsenの語学コース、無料、大学の各学期毎

生活	
住居のタイプ	学生用マンション
住居の名前	Titaniaweg7
部屋タイプ	学生用シェアルーム
ルームメイト(国籍)	マレーシア、イタリア、ガーナ、トーゴ、ベナン
室内設備	キッチン、バルコニー、トイレ、シャワー
共用施設	パーティールーム(コロナのため使用不可)
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	トラムかSバーン、30分~40分程度
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	学生ビザ
Visa申請先	外国人局
Visa取得にかかった日数	約1か月
Visa取得にかかった費用	100€(手続き料)
Visa取得方法、提出書類等	Visaはドイツ到着後から手続きを始めました。ドイツでのVisa取得のためにはまず閉鎖口座と呼ばれる銀行口座が必要です。閉鎖口座とは滞在月×861€分を入れる必要がある留學生のための口座です。具体的な手続きとしては、住民登録→Visa申請(申請書、大学の入学許可証、パスポートのコピー提出)→閉鎖口座開設→閉鎖口座証明書提出→仮Visa発行→Visaの受け取り、という感じでした。
留学先大学の最寄り空港までの経路	関西国際空港→羽田空港→フランクフルト空港→ライプツィヒ空港
渡航費用	約20万円
ピックアップサービスの有無	バディーが空港まで迎えに来てくれました。

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	修論執筆のため
就職活動開始時期	2023年4月
帰国後の進路	高校教員

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	ユーロ＝約130～140円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	現地の保険(月約80€)
学費(教科書代や語学コース授業料等)	学費が学期ごとに243€
宿舍費(月額)	180 €
光熱費(月額)	家賃に含まれる。
食費(月額)	約200€
その他	交際費や雑費が200～400€
留学期間中にかかった費用の合計	約200万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

まず一年間の留学生生活を無事に終えることができ本当に良かったと思います。今回の留学は、コロナの感染拡大により実際に行くことができるのかが渡航直前まで分からないという状況でした。また実際にドイツへ渡った後も、ドイツで再び感染が拡大し、最悪の場合、途中で帰国しなければならないかもしれないという状況でした。そのような状況で、何事もなく留学生生活を過ごすことができ本当に良かったです。さて、ドイツでの生活ですが、毎日のように日本では決して体験することのできない出来事の連続でした。日常生活のあらゆることをドイツ語、あるいは少なくとも英語で行わなければならないというのは想像以上に大変なことでした。書類の手続きはもちろん、買い物や散髪といった日本ならばなんということもない活動が、ドイツでは冒険のように感じられました。授業ではドイツ語のクラスや英語のクラスがありましたが、どのクラスにも様々な国からやってきた学生がいました。当然、各学生の持っているバックグラウンドも全く異なり、各国の祝日についてや宗教・政治など様々なことについて話し合うと、驚きの連続でした。以上のように、当然苦労も多かったです。日々今まで経験したことのない新たな経験をすることができました。そしてそのような経験を通して、「自分」という人間はいったいどのような人間なのかということについて自省する機会も多く得ることができました。私が日本で生活しているときに自分が外国人として人と接する機会はほとんどありませんでした。しかしドイツで生活していると当たり前ですがどこにいても自分は基本的に外国人として見られます。そして自分がどこから来て、どのようなバックグラウンドを持っているのかを説明する必要に迫られます。つまり自分自身がどのような人間なのかを説明しなければなりません。このように日本ではない外国に身を置くことで、自分自身を見つめなおすことができました。最後に語学に関しては、留学前に想像していたよりも出来るようにならなかったというのが正直な感想です。ドイツ語や英語を話す機会は日本にいたころとは比較にならないほど多くなり、当然語学力は向上したのですが、周りには自分以上に語学が出来る人だらけだったの常に自分はまだまだ未熟だと感じていました。またドイツ語の聞き取りも、一年いれば何の問題もなくドイツ語を聞き取れるようになると思っていましたが、実際にはドイツ人が自然なスピードで話すと全然聞き取れないということも多かったです。なので、日本に帰ってからも引き続き勉強を頑張らないといけないと感じています。

アドバイスは、とにかく留学前から語学を頑張っていたほうが良いということです。当たり前ですが、これが全てだと思います。私は留学前に、ドイツ語を話す機会がほとんどなかったため、ドイツに着いた当初はドイツ語は多少読めるがほとんど喋れない状態でした。その結果、ドイツ語を話すことに対する恐怖心が大きく、困るとすぐに英語を使ってしまっていました。今考えると失敗を恐れずにどんどんドイツ語を話せば良かったと思いますが、そのためにも留学前から少しでもドイツ語を話す機会を作っておけば良かったと思っています。語学以外に強いてアドバイスするとすると、食に関してです。日本にいればどこでも食べることができる美味しいラーメンや牛丼、うどんといった食べ物がドイツでは基本的に食べるできません。もちろん日本食レストランやアジアスーパーがあり、日本食を食べたり材料を買うことはできますが、多くの場合、高かったり全く味が異なったりします。なので、自分で自炊できるようにしておくか、あるいは毎日パンやパスタ、チーズ、ハムでも耐えられるよう訓練しておくといいかもしれません。

報告書記入日

2022年9月2日